

アンケート結果にみる授業の成果と課題（平成 28 年度）

教育臨床講座・山田 誠

1. 授業の概要

（1）受講者

本授業は、学校教育基礎コース教育学専修の「教育学に関する専修科目」（後学期開講、選択科目）であり、主な対象は2年生である。今年度の登録学生は15名であったが、うち2名は全く、またはほとんど出席しなかったため、実質的な受講者数は13名である。

（2）授業の目的・到達目標

本授業の目的は、まず、生涯学習を支援するための基礎的知識を身につけ、とりわけ成人期の学びの支援について、子どもの学びの支援と対比させ、また関連付けながら理解することである。また、各教育部門の取り組みにおいて、子ども期から成人期へと、生涯学習者としての成長をどのように支援することができるかを考えることができるようになるということである。

授業の到達目標は、次の4項目である。

1) 生涯学習、生涯教育に関する基礎概念、及び生涯学習関連施策の動向を把握し、説明できる。

2) 学習支援の基礎理論及びアンドラゴジーの原理について理解し、説明できる。

3) 生涯学習者としての成長や自己主導的学習の支援について理解し、説明できる。

4) 学校教育や社会教育等、各教育部門の特質を把握し、各部門において生涯学習者としての成長の支援にどのように取り組まれるべきかを主体的に考え、論述することができる。

（3）関連するディプロマ・ポリシー（DP）

学校教育教員養成課程の卒業時の到達目標（DP）のうち関連する項目は、「教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野・教科等についての専門的知識を修得している。（知識・理解）」を想定している。

（4）授業の方法・形態

基本的には教科書・配付資料や板書を用いた講義形式中心の授業であるが、発問や受講者の意見発表、受講者との対話を取り入れる

ようにしている。加えて、筆者は、受講者との双方向性を確保するとともに、受講者における授業内容の理解・定着や思考の深化を促す手立てとしてコメント（振り返り）カードを用いている。また、授業時間外に教科書を読んで学んだことや自己学習・発展的学習を行った成果をコメントカードに記入・報告することを奨励するとともに、その記述内容も評価の対象とすることを伝えている。

2. アンケート結果

15回目の授業（期末試験と振り返り）の代わりに、授業全体を振り返っての、受講者による授業評価アンケートを実施した。アンケートは、無記名で、4段階評価形式の質問が4項目9問と自由記述形式の質問が2問である。13名全員から回答を得られた。以下には、アンケート結果のうち授業全般に関するものを示す。なお、自由記述形式の結果については割愛する。

【授業の内容に関する質問】

1-1. [関心・興味] この授業で取り上げられた事柄について、関心・興味がわいた。

4. そう思う：3名（23.1%）

3. まあそう思う：5名（38.5%）

2. あまりそう思わない：4名（30.8%）

1. そう思わない：1名（7.7%）

「そう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定的回答の割合が61.5%であった。同じ問いに対する前年度の肯定的回答は83.3%であったので、かなり低下している。

【授業担当者の授業方法に関する質問】

2-1. [わかりやすさ] 教員の説明の仕方はわかりやすかった。

4. そう思う：2名（15.4%）

3. まあそう思う：9名（69.2%）

2. あまりそう思わない：2名（15.4%）

1. そう思わない：0名（-）

2-2. [教材等の使用] 教科書、プリント、黒板（ホワイトボード）等の使い方は効果的だった。

4. そう思う：6名（46.2%）
3. まあそう思う：4名（30.8%）
2. あまりそう思わない：3名（23.1%）
1. そう思わない：0名（－）

2-3. [コメントカード] 毎回コメントカードを記述することが、授業内容について振り返るとともに、理解や考えを深めるのに役立った。

4. そう思う：7名（53.8%）
3. まあそう思う：5名（38.5%）
2. あまりそう思わない：1名（7.7%）
1. そう思わない：0名（－）

授業方法に関する3つの質問に対する肯定的回答は順に、84.6%、76.9%、92.3%である。ほぼ同様な質問に対する前年度の肯定的回答は順に、83.3%、75.0%、100.0%であり、大体似た結果であった。

【授業全体に関する質問】

3-1. [得るものがあったか] この授業により、考えが培われたり、得るところがあった。

4. そう思う：5名（38.5%）
3. まあそう思う：8名（61.5%）
2. あまりそう思わない：0名（－）
1. そう思わない：0名（－）

3-2. [目的・目標達成度] この授業の目的・目標は達成された。

4. そう思う：3名（23.1%）
3. まあそう思う：9名（69.2%）
2. あまりそう思わない：1名（7.7%）
1. そう思わない：0名（－）

3-3. [満足度] この授業は全体として満足のいくものだった。

4. そう思う：3名（23.1%）
3. まあそう思う：8名（61.5%）
2. あまりそう思わない：2名（15.4%）
1. そう思わない：0名（－）

授業全体に関する評価について、上の3つの質問に対する肯定的回答は順に、100.0%、92.3%、84.6%である。ほぼ同じ質問に対する前年度の肯定的回答は順に、100.0%、100.0%、91.7%であり、目的・目標達成度及び満足度において、やや低下しているようである。

3. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

(1) 筆者について

筆者は、特定の市町あるいは県を対象、フィールドとする研究において、地域社会レベルでの検討を行った経験はあるものの、現在、「地域社会を核とした研究」を実施しているとは言いがたい。むしろ今の主な研究内容は、一見、地域社会から遊離しているように見えるかもしれない。とはいえ、「研究対象」という限定的な意味合いのみではなく、これまで様々なかたちで、地域の教育活動に取り組んでおられる方々や学校、教育機関、教育行政等の方々と関わりを持たせていただき、地域社会について自分なりに考えつつ、時には、拙い意見をお伝えする機会を与えてもいただいていた。また、地域社会を対象とした教育活動ということでは、例えば、本学において開催する社会教育主事講習の計画、運営もそのひとつといえよう。お陰様で、本年度も、学内外のたくさんの方々のご協力を賜り、無事開催することができた（『平成28年度社会教育主事講習研究集録』愛媛大学、平成28年）。これらのことを通して、地域社会の教育にどれだけ貢献できたのか心もとないけれども、有り難いことに、地域社会における学習および教育活動の実際に関する様々なことを学ばせていただいたのは事実であり、そこで得られたことを学生教育に活かすよう心がけてもきた。しかし、振り返ると、研究としても、社会貢献としても、筆者の地域社会への関わり方は、どうも中途半端で要領を得ないものであるように思われる。そこには筆者の力不足があり、また、社交性に欠ける性質も関係しているかもしれない。地域社会にいかに向き合えばよいか、まだまだ手探りを続けている。

このように、地域社会を核として教育と研究とをつなぐというところまで至れてはいないのが筆者の現状である。

(2) 本授業について

成人期の学習、そしてそれを含む生涯学習は、家庭や学校・大学、地域社会や職場等において展開されている。生涯学習及びその支援の取組において、地域社会は主要な舞台のひとつである。よって、地域社会における学習活動及び学習支援の活動は、本授業で取り

上げる重要な事象である。しかしながら、本授業の内容は、必ずしも（特定の）地域社会に焦点化して構成されてはいない。

本授業では、成人の学習をはじめとして生涯学習とその支援に関する理論及び実際について考察する。その際、①国際的視点から動向を追うこともあれば、②国レベルでの取組を把握しようとする部分もあり、また、③地域社会や家庭といった、より身近な生活圏内におけることとしての議論となる場面もある。そして、①～③のような（あるいは、個人、集団、社会といった）異なる視点やレベルで検討するとともに、それらが総合されることにより、授業テーマに関する考察や理解が深められることを目指している。言い換えれば、①や②の内容を③の視点から問い直すことが大切であるし、③の議論をより現実的、建設的なものにするためには、①や②から得られた知識・理解、問題意識が必要とされると考えている。しかし、実際のところ、授業の構成も展開も未熟であり、時間不足にもなりがちで、工夫・改善の余地がある。

なお、今回、「地域社会を核とした教育と研究のつながり」という観点から授業を計画し直したり、シラバスを変更したりすることはしていない。ただ、最終回に実施した授業評価アンケートにおいて、今回は、次の（3）で見ると、「地域社会における教育活動についての関心・理解に関する質問」という項目を立て、2問設定することにした。

（3）アンケートから

【地域社会における教育活動についての関心・理解に関する質問】

4-1. [理解の進展] この授業を通して、社会教育活動（公民館、社会教育主事、PTA等）をはじめ、地域の教育・ボランティア活動（学校教育支援、家庭教育支援、学校・家庭・地域の連携・協力等）についての理解が深まった。

4. そう思う：8名（61.5%）
3. まあそう思う：4名（30.8%）
2. あまりそう思わない：0名（—）
1. そう思わない：1名（7.7%）

肯定的回答が92.3%と好ましい結果であったが、特に「そう思う」の比率が61.5%と、今回のアンケート結果においては最も良

い数値であった。有り難いことである。

4-2. [情報の提供] この授業で提供された、地域の教育・ボランティア活動や関連イベント（土曜塾、地域教育中予ブロック集会等）に関する情報は、興味・関心を持たた。

4. そう思う：7名（53.8%）
3. まあそう思う：4名（30.8%）
2. あまりそう思わない：2名（15.4%）
1. そう思わない：0名（—）

近年、地域の教育・ボランティア活動の実施や関連イベントの開催等において、参加者として、または運営スタッフとして、大学生に対する需要・期待が高まってきているように感じる。面識のある方々をはじめ、主催者等から大学生を対象とする募集の協力依頼を受けることもしばしばある。こうした状況を受け、学生にとって貴重な経験や学びの機会となりうるものについては、掲示やチラシ配布、声掛け、授業内容と関連したものは、授業中に紹介・案内を行うなど、できるだけ協力させていただいている。その際、案内を行った学生たちから実際参加者が得られればうれしいことであるが、授業時間を使って紹介する場合は特に、募集のための情報提供にとどまらず、地域社会における取組、活動事例として学習の一環となるように配慮している。だが、依頼を受けての行き当たりばったりの対応になりがちで、前述の通り授業時間的に余裕がない中で、丁寧に紹介しようとするればするほど、当初の授業計画にしわ寄せが生じ、あとで苦慮することになる。また、参加を授業の課題として、事後にレポートを出させるなどすれば、学習への活用度を高め、参加者集めにも効果的であるかもしれないが、本授業では、これまでそういった形は取り入れてこなかったように思う。

4. 総括

前掲1-1～3-3までの7つ質問に対する結果については、前年度より低下した項目に注意せねばならず、また、「そう思う」の比率をより向上させることが必要である。一方、筆者は、地域社会に真っ正面から取り組むような研究及び教育は実施できておらず、本授業において両者をつなぐこともなしていない。筆者にとっては、難しい課題である。